

令和6年
2024年

12月23日
月曜日

第11622号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6カ月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



自民党が第2回畜産・酪農対策委員会を開催した……P2～3

注目のヘッドライン

自民党、第2回畜産・酪農対策委員会開催、現地視察の報告や意見交換実施

自民党の第2回畜産・酪農対策委員会が20日、党内で開催された。会議では、12月14、15日に行った宮崎県、鹿児島県での現地視察の報告や、ランピースキン病の現状と対策の説明が行われた後、意見交換が行われた。

…詳細はP2～3

～24年回顧「輸入牛肉」～仕入コスト高続く

…詳細はP4～5

- ▶ 自民党、第2回畜産・酪農対策委員会開催、現地視察の報告や意見交換実施……P2～3
- ▶ ～24年回顧「流通統計」～豚は増減まちまち、和牛雌の出荷が大幅増……P3
- ▶ ～24年回顧「輸入牛肉」～仕入コスト高続く、米国減産、円安など影響……P4～5
- ▶ [鶏肉輸入予測数量] 1月は計4万7410tで13.3%減……P5
- ▶ [配合飼料生産量・10月] 計205万7962tで前年比2.3%増……P5
- ▶ GCに江籠畜産を選出、京都食肉販売が4301円で購買第26回教徒食肉市場枝肉共進会……P6
- ▶ [POSランク11月その他加工肉製品]……P6
- ▶ 薩摩ハム、デイブレイクの特殊冷凍機「アートロックフリーザー」を導入……P7
- ▶ 鳥フル発生を受け、飼養衛生管理の徹底を呼びかけるー江藤農相……P7
- ▶ 鹿児島県霧島市で鳥フル、肉養鶏10万羽殺処分ー農水省……P7
- ▶ 【東京食肉卸売市場】……P8
- ▶ 【大阪市食肉卸売市場】……P8
- ▶ ふるさと納税の返礼品で米澤佐藤畜産の「最高級米沢牛一頭分」提供開始……P8
- ▶ その他加工肉製品11月 POS売れ筋品目 ベストランキング月次……P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 20日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 20日……P11



国内で唯一、最大級の食肉総合見本市

第49回 **2025食肉産業展**
2025 Japan Meat Industry Fair 49th.

肉のサステナビリティとイノベーション

会期 ● **2025年3月11日(火) ⇒ 14日(金)**

会場 ● 東京ビッグサイト 東7ホール

主催 ● 食肉産業展実行委員会
後援 ● 農林水産省、厚生労働省ほか

食肉産業展HP ▶ <https://www.shokuniku-sangyoten.jp>

自民党、第2回畜産・酪農対策委員会開催、現地視察の報告や意見交換実施

自民党の第2回畜産・酪農対策委員会が20日、党内で開催された。会議では、12月14、15日に行った宮崎県、鹿児島県での現地視察の報告や、ランピースキン病の現状と対策の説明が行われた後、意見交換が行われた。

初めに、築和生畜産・酪農対策委員長は、「北海道、九州への現地視察で現場の窮状を受け止め、さまざまなご意見をいただいていた。総じて将来の畜産・酪農の生産基盤をいかに守っていくか、中長期的な観点の意見が多かった。近々の価格単価、関連対策の議論はもちろん、中長期の畜産酪農の在り方についても活発な忌憚のない意見をいただきたい」と述べた。続いて、宮下一郎総合農林政策調査会長が「畜産・酪農をめぐる情勢は厳しさを増しているが、安定して中長期を見通した持続可能な農学ができるというメッセージの打ち出しが必要だ」と、最後に上月良祐農林部会長が「畜産・酪農はところによってさまざまな課題がある。皆さまの声をもち寄って対策を打ち出していくのが自民党農林の良さだと思っている」とあいさつ。

次に、事務局が宮崎県および鹿児島県の現地視察を報告。両県の意見交換会では、優良和子牛生産推進緊急支援事業など肉用子牛対策への感謝や、令和6年度補正予算による和牛肉需要拡大緊急対策事業や優良繁殖雌牛更新加速化事業などを高く評価・期待する発言のほか、生産コストが上昇し厳しい経営状況が継続する中、「次の世代が希望を持てるような畜産・酪農にしてほしい」とし、このうち、畜産物価格関係では、「肉用子牛生産者補給金の保証基準価格について、生産コスト上昇を踏まえ、引き上げられないか。優良和子牛生産推進緊急支援事業の継続もお願いしたい」「繁殖肥育一貫経営で自家保留する子牛も、優良和子牛生産推進緊急支援事業の対象にしてほしい」という意見が上がった。

また、経営安定対策関係では、「加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金、牛マルキンの算定について、労働費上昇の影響をしっかりと反映してほしい」「配合飼料価格が高止まる中、飼料コストが低減する対策をお願いしたい」「資材・機材が高騰しており、安心して経営できるように適正な価格形成が行わ



れる環境づくりをお願いしたい」とし、家畜衛生関連では「ランピースキン病の感染拡大防止対策を徹底してほしい。予防対策や輸出への影響など、生産現場への正確な情報の周知をお願いしたい」「海外からの家畜疾病の侵入を防止するため、水際対策を強化してほしい」「埋却地確保が課題であり、他の処分方法や過去に使用した場所の再利用など、円滑に処分できるような施策をお願いしたい」などの声上がり、需要拡大関係においては「子牛価格や枝肉価格の低迷には和牛肉の需要拡大が重要。補正予算で大きく増額計上されている和牛肉需要拡大対策に期待」「米国の低関税枠の確保や出荷月齢の制限撤廃など、さらなる牛肉の輸出促進に向けた環境づくりをお願いしたい」「国産豚肉の消費拡大に向けたPRをお願いしたい」と報告。

そのほかの意見として「資材費が高騰している中、規模を維持する場合や中古機械でも畜産クラスター事業を活用しやすくなるようにしてほしい」「養豚農業基本方針を5年をメドに改定し、施策の方向性を示してほしい」などの声が上がったという。

続いて、ランピースキン病の発生状況について「牛乳の生産などに一時的な影響はあるが、致死性は低く、ほとんどの牛では徐々に回復傾向にある。家畜伝染病予防法上は『届出伝染病』の扱いとなり、人には感染せず、畜産物も食用上安全」とし、「11月6日、福岡県の乳用牛農場で国内初の感染を確認し、12月18日時点で福岡県で19事例、熊本県で2事例発生が確認されている」と説明。対応状況については「発症している間は、生乳の出荷ができなくなるため、まん延防止対策が重要。発生県と連携し対策に全力を

挙げる」とした上で「発生農場における生乳の出荷および生体の移動の自粛、臨床症状を呈する牛の隔離」「周辺農場における異状確認(10km圏内)・害虫防除対策(20km圏内)」などとし、輸出への影響については「協議の結果、輸出が制限されていた、香港向け牛肉、台湾向け乳製品等、豪州向け牛肉については、輸出継続が可能」「米国向け牛肉についてはワクチン接種牛の産子の輸出停止は解除された一方で、ワクチン接種県(福岡県)由来の牛は対米輸出および対米輸出施設への搬入を制限しており、制限解除に向けて米国と調整を継続中」であるとした。

意見交換では、ランピースキン病に対して不安の声が上がっており、これについて、農水省は「正しく理解してもらうことは非常に大事。新しい病気であるがゆえに不

安もあるので、正しい情報を発信し、また理解していただけるように工夫をしていきたい。対米協議について、安全であることは確信をもっているため、今後も協議を続けていきたい」と説明。このほか、枝肉価格の伸び悩みに対する意見に対し、「和牛消費拡大事業は、在庫を管理しないと価格は需要と供給のバランスで上がらないということから、昨年の3倍強の対策を打った。今年の10月からは前年を超える枝肉価格となり、ようやく逆転してきた。年が明けると年末需要の反動で落ちるところがあるが、しっかりと事業を活用していきたい」と答えた。

なお、次回開催は23日を予定しており、取りまとめに向けた議論を行う。

～ 24 年回顧「流通統計」～ 豚は増減まちまち、和牛雌の出荷が大幅増

2024年の食肉流通統計をみると、肉牛のうち和牛は増加、乳牛・交雑牛は減少という傾向が読み取れる。肉豚は月によってまちまちだが、8月の減少幅が大きいのは、猛暑による生育不良が多かったためだろう。

肉豚の月別出荷頭数をみると、1月が141万4172頭(前年同月比2.2%増)、2月が137万4654頭(4.8%増)、3月が137万665頭(6.7%減)、4月が140万8522頭(6.2%増)、5月が136万411頭(0.4%減)。

6月が119万3058頭(10.1%減)、7月が131万1116頭(5.1%増)、8月が122万2786頭(6.0%減)、9月が127万7605頭(1.2%減)、10月が145万8325頭(1.5%増)となっている。

1～10月のうち、増加したのが1月、2月、4月、7月、10月の5カ月、減少したのが残りの5カ月で、ちょうど半々で増加した月、減少した月が分かれた。

このうち6月の出荷頭数が大幅に減少したのは猛暑の影響で、7月も同じく猛暑だったが、6月出荷遅れの分が出荷されたため増加したものと思われる。

成牛のと畜頭数は、1月が8万5166頭(1.7%増)、2月が8万3898頭(1.3%増)、3月が8万9625頭(3.4%減)、4月が9万6546頭(3.6%増)、5月が8万

8038頭(3.9%増)。

6月が8万4676頭(4.2%減)、7月が10万67頭(5.0%増)、8月が8万2913頭(3.7%減)、9月が9万87頭(0.3%増)、10月が9万9479頭(3.6%増)と、3月、6月を除いて増加。

うち和牛の前年比は1月が9.1%増(雌12.2%増、去勢6.5%増)、2月が8.0%増(11.4%増、5.0%増)、3月が2.8%増(5.3%増、0.7%増)、4月が7.6%増(13.2%増、3.0%増)、5月が10.4%増(14.1%増、7.2%増)。

6月が2.6%増(5.9%増、0.3%減)、7月が11.4%増(16.2%増、7.3%増)、8月が2.1%増(5.5%増、0.8%減)、9月が8.5%増(15.0%増、2.8%増)、10月が9.4%増(14.5%増、4.7%増)だった。

これからみても分かるとおり、和牛の出荷頭数は拡大傾向で、特に雌牛の出荷増はただ事ではない。5.3%増から16.2%増まで幅はまちまちだが、各月とも大幅増といって良いだろう。

これは農林水産省が政策的に進めている優良雌牛への更新だけでは済まない。将来の生産基盤が憂慮されるゆえんだ。

～ 24 年回顧「輸入牛肉」～仕入コスト高続く、米国減産、円安など影響

今年の輸入牛肉の状況を振り返ると、1月の輸入チルドは前年から続いていた豪州の港湾ストライキの影響が緩和してきたが、スソ物を中心とした人気アイテムは逼迫し、例年であれば年明けは引き合いが弱まる時期だが、今年は引き合いが強いままとなった。ナーベル、ポイント、クロッド、トップサイドなどが強く、他方ランプは弱く、グラスでは荷余り感もみられた。

米国産はショートプレートが1千円を超え、チャックアイロールはチョイスで1800円～、プライムで2千円～という高値相場となり、チャックアイの荷動きは重くなった。

フローズンはチルドに遅れて通関遅延の影響が出てきたため、ナーベル、ポイントが逼迫した。米国産は相場高でいずれも荷動きが重かった。

2月は外食の一部で焼き材の引き合いがあった程度で、チルド・フローズンとも全体の荷動きは重く、豪州産で通関遅延が散発したが、引き合いの弱さから、市場に混乱は生じなかった。

豪州では放牧による飼養が中心だが、雨量で牧草量(飼養効率)が変動する。干ばつ期には出荷を急ぎ、長雨の場合は出荷を抑える傾向がある。2月は長雨の影響から出荷を抑える生産者が多く、円安も相まって仕入コストが上昇した。

3月のチルドはモモ系、赤身の引き合いが良好。年度末の売り上げ作りで焼き材も動いた。豪州産のポイント、ナーベルは通関遅延が落ち着いたため在庫が安定し始めたが、トップサイドやクロッドは依然として逼迫。

米国産は年初から高値相場が続いたため、パストラミ、ショープレなど一部アイテムに引き合いが集中。また、わずかでも価格メリットがある豪州産、カナダ産への切り替えが進んだ。

フローズンは引き続き豪州産ポイント、ナーベルが逼迫。米国産ではショープレがチルドより高値で取引されるケースも散見された。また、米国現地での飼養頭数減少、それに伴うロイン系の高騰と代替需要(主にチャックアイ)、韓国などの競合国が米国産の買い気を強めるなど、円安以外の理由からも仕入コストが上昇した。

4月は花見のシーズンが3月から後ろにずれ込んだ

ため、下旬のゴールデンウィーク向けの手当てとも相まって堅調な荷動きとなった。豪州産チルドでは、モモ系、赤身、焼き材が良好。しかし、通関遅延の影響で逼迫感は強かった。

米国で自国の牛肉生産量が減少し、豪州産の買い気を強めたことから、豪州では日本向けの輸出が減少。入船量が少ないことも逼迫を招いた。米国産ではショープレ、チャックアイの引き合いが強かった。フローズンは米国産、豪州産の多くの部位で逼迫した。

5月、チルドではGWが明けても量販店からの引き合いが堅調に推移。モモ系を中心に、ランプ、チャックロールが動いた。バラ系部位で、米国産ショープレの代替品としてナーベルを提案してきたが、豪州産も高騰してきたことで価格メリットを打ち出せず、荷動きは停滞。

米国産ではショープレやチャックアイのほか、ショルダークロッド、リブアイロールも不足感を強めた。豪州産フローズンではショープレの代替需要でナーベルが逼迫。カウミートをショープレの代替品とする場面もみられた。

6～7月は梅雨という季節要因で荷動きが弱く、そこに円安(7月10日時点で1ドル161円)や相場高という要因が重なってさらに厳しい環境となった。

8月には為替が円高に振れる(8月5日時点で1ドル144円)が、次は猛暑や節約志向の影響で末端消費が振るわなかった。

9月は中間決算を迎える企業の売り上げ作りなどもあり、高騰して荷動きが停滞していた米国産などの各アイテムで投げ売りが散見され、輸入牛肉の各アイテムで荷動きが好転した。為替も9月16日時点で1ドル140円となっており、円安が落ち着きをみせたことも好影響となったか。しかしながら現地相場は高値を続けており、荷動きの好転は一時的なものであった。

10～11月は投げ売りから通常相場に戻したが、これを受けて末端の荷動きは再び停滞した。しかしながら、11月14日時点で1ドル156円と再び円安に振れていることから、各社では現地買い付けを抑制。これを受けて、年末に向かって市中在庫量は締まっていく。

12月は豪州産チルドのランプ、アウトサイドの引き合いが強く、量販店向けのモモ系、カタ系など赤身が動

いている。また、若干の値頃感からバラ系、ロイン系も動いている。しかしながらいまだ逼迫するほどにはなっていない。

米国産ではチャックアイ、ショープレが動いているものの、決して強い動きとはいえない。フローズンも赤

身中心の引き合いだが、チルド以上に弱い引き合いとなっている。

買い付けを絞っている状況で在庫が逼迫しないのは、消費が牛肉から豚肉、あるいは鶏肉へとシフトしているということだろう。

【鶏肉輸入予測数量】 1月は計4万7410 tで13・3%減

日本食肉輸出入協会は19日、鶏肉輸入動向検討委員会を東京都内で開催し、11月～来年1月の鶏肉輸入数量を予測した。それによると、11月は計5万1660t(31・8%増)で、ブラジルが3万6千t(56・9%増)、タイが1万4800t(1・0%減)、米国が800t(35・2%減)、その他の国が60t(13・2%増)。

12月は計5万1960t(1・9%増)で、ブラジルが3万8300t(13・4%増)、タイが1万3千t(19・0%減)、米国が650t(44・0%減)、その他の国が10t(5倍増)。1月は計4万7410t(13・3%減)で、ブラジルが3万5200t(14・7%減)、タイが1万1500t(10・6%減)、米国が650t(31・3%増)、その他の国が60t(前年並み)と予測している。

鶏肉の輸入については、冬場における需要期に入っており、外食や中食などを含めた鶏肉需要の増大に加え、消費者の節約志向を背景とした鶏肉需要の高まりも後押ししつつ、堅調に推移するものと予測している。他畜種などの商材による庫腹^{ひっぽく}の逼迫は改善傾向にあるときいており、輸入鶏肉自体の在庫も高水準にあるものの、出回り量も多いため調達への大きな影響はないもようである。引き続き、不透明な為替動向、国内外における高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生動向、積出港における積載遅延などの影響についても、注視していく必要があるとしている。

【配合飼料生産量・10月】 計205万7962 tで前年比2・3%増

農水省が20日に公表した10月の配合飼料の生産・出荷・在庫状況(速報版)によると、生産量は205万7962t(前年同月比2・3%増)、出荷量は206万

5062t(2・0%増)となった。

そのうち養鶏用をみると、成鶏は生産量が47万6809t(5・0%増)、出荷量が48万3878t(6・0%増)、ブロイラーは生産量が33万8393t(2・9%増)、出荷量が32万24t(3・0%減)となっている。育すうは生産量が5万1391t(3・8%減)、出荷量が5万1725t(3・9%減)と前年同月を下回った。

養豚用の肉豚は生産量が22万3538t(1・1%減)、出荷量が22万5312t(1・5%減)、子豚は生産量、出荷量は共に前年同月を下回った。

肉牛用は生産量が41万6853t(1・7%増)、出荷量は41万8002t(1・2%増)。肉牛用のうち子牛用は生産量が前年同月を上回り、出荷量が下回った。

配合飼料生産・出荷・在庫状況

単位:トン、%

	区分	生産量	前年比	出荷量	前年比	当月末在庫
養鶏用	計	866,593	103.6	875,627	104.2	10,525
	育すう	51,391	96.2	51,725	96.1	971
	成鶏	476,809	105.0	483,878	106.0	4,712
	ブロイラー	338,393	102.9	320,024	97.0	4,842
養豚用	計	496,471	100.0	497,847	99.3	15,405
	ほ乳期	62,451	102.2	61,001	99.4	7,241
	子豚	134,011	99.2	135,244	99.0	2,685
	肉豚	223,538	98.9	225,312	98.5	3,398
	種豚	76,471	102.9	76,290	102.2	2,081
養牛用	乳牛用計	272,810	103.5	268,819	101.6	29,486
	うち子牛用	14,966	104.3	14,730	100.3	3,599
	肉牛用計	416,853	101.7	418,002	101.2	29,805
	うち子牛用	60,275	100.4	59,745	99.3	8,622

注:工場数132

GC に江籠畜産を選出、京都食肉販売が 4301 円で購買 第 26 回京都食肉市場枝肉共進会

京都食肉市場で12日、第26回京都食肉市場枝肉共進会が開催された。岩手県、長野県、静岡県、三重県、京都府、奈良県、和歌山県、兵庫県、岡山県、島根県、広島県、山口県、徳島県、愛媛県、熊本県、宮崎県、鹿児島県と、全国17府県から合計100頭(雌47頭、去勢53頭)の黒毛和牛が出品され、厳正な審査の結果、グランドチャンピオン(京都市長賞)に(有)江籠畜産の出品牛(去勢、A5等級、産地=鹿児島県、30カ月齢、BMSNo.12、枝肉重量=678.6kg、父=「梅華福」、母父=「幸紀雄」、祖母の父=「美国桜」)を選出し、キロ当たり4301円で京都食肉販売(株)が買い受けた。

競りの冒頭、主催者を代表して京都食肉市場の宮田典幸社長(上写真)が「本日出品された枝肉100頭は、全国各地の生産者の皆さまが愛情を込めて育てた、いずれも優秀な枝肉となっている。良質な枝肉を出品いただいたことに、この場を借りてお礼申し上げます。当市場の集荷頭数は順調に伸びており、今年度は過去最多となることを見込んでいる。昨年度が1万3800頭に対し、今年度は約14000頭を予定している。これほどの頭数が集まったのは、買参人の皆さまのおかげであり、京都の食肉相場を維持していただき、また、1頭も余すことなく購買いただき、感謝申し上げます。今年もあとわずかとなったが、年末商戦に向けて、力強い購買をお願い申し上げます」とあいさつを述べた。

グランドチャンピオン以外の入賞牛の生産者(購買者)は次のとおり。

優秀賞 肉研ファーム信州松本牧場(去勢、A5



等級、長野県、27カ月齢、BMSNo.12、573.7kg、幸忠栄、福増、隆之国、販売単価=2903円、京都食肉販売)、西川貴大(去勢、A5等級、京都府、32カ月齢、BMSNo.12、638.9kg、百合未来、隆之国、美国桜、3101円、銀閣寺大西)▽優良賞 河内畜産(雌、A5等級、岡山県、30カ月齢、BMSNo.12、502.9kg、夏百合、諒太郎、百合茂、2903円、同)、京都丹波牧場(去勢、A5等級、京都府、32カ月齢、BMSNo.12、703.8kg、若百合、諒太郎、安福久、2761円、同)▽マーケットニーズ賞 富永孝一(雌、A5等級、鹿児島県、28カ月齢、BMSNo.8、505.3kg、若百合、百合茂、安福久、2741円、同)

【POSランク 11 月その他加工肉製品】「ほぐしサラダチキン」が首位

(株)KSP-SPが全国食品スーパーマーケットから独自に収集した11月POS/その他加工肉製品売れ筋ランキングによると、シジシージャパン「ほぐしサラダチキン」(100g)が首位だった。

2位はシジシージャパン「サラダチキンプレーン」(125g)、3位は日本ハム「サラダチキンプレーン」

(156g)、4位は伊藤ハム「ソラチのタレ使用ジンギスカン」(180g×3)、5位はイオントップバリュ「TV手仕込みローストビーフシルキーカット」(108g)だった。対象店舗1043店舗の総販売金額は2億7043万7734円。

薩摩ハム、デイベレイクの特殊冷凍機「アートロックフリーザー」を導入

特殊冷凍テクノロジーの製品企画・開発と高品質冷凍商品のプラットフォームを運営するデイベレイク(株)(東京都品川区、木下昌之社長)はこのほど、鹿児島県でハム・ソーセージ・ベーコンの製造・販売事業を展開する薩摩ハム(株)(鹿児島市、清田浩徳社長)で、同社の特殊冷凍機「アートロックフリーザー」が導入されたことを発表した。

薩摩ハムは、全国有数の畜産県である鹿児島県で創業40年を迎える食品加工メーカー。厳選された国内外の豚肉を主原料とし、一品一品丁寧に製造。高い品質と味わいが支持され、地域に根差した物作りを続けている。同社では、これまでも冷凍設備を活用してきたが、凍結に時間がかかるため生産効率が低いことや、凍結時に製品が塊状になることで、バラ凍結が求められる現場での対応に苦勞するといった課題があり、これらを克服し生産性を高める必要性から、24年10月末にデイベレイクの特殊冷凍機「アートロックフリーザー」を導入した。

薩摩ハムでは、主に学校給食用のソーセージやベーコンの製造工程に同製品を活用している。九州や広島、岡山の学校に届けるソーセージやベーコンを、



加工直後の新鮮な状態で凍結。これまでの冷凍設備では難しかった安定した品質のバラ凍結が可能になり、大袋で納品する供給形態が実現したほか、納品先では用途に応じて小分けに対応できるようになり、利便性も向上。

さらに、凍結時間が大幅に短縮されたことで、製造にかかる時間が従来の半分にまで削減される見込みで、これにより、限られた人手・時間を効率的に活用できるようになり、生産量の拡大も可能になった。

薩摩ハムは、学校給食向け製品の製造における冷凍技術を活用したオペレーションを確立し、さらなる生産効率の向上を図る。また、自社ブランドとして一般消費者向けに販売する製品にも冷凍技術を活用し、鮮度と品質に優れた冷凍商品の開発を進めていくことを検討していくとし、これにより、新たな市場への進出やブランド力の向上を進めていくとしている。

鳥フル発生を受け、飼養衛生管理の徹底を呼びかける—江藤農相

江藤拓農水大臣は20日、閣議後会見で高病原性鳥インフルエンザの発生状況に対する受け止めをきかれ、「見通しを申し上げることは難しい。しかし、私は口蹄疫を経験した宮崎県の人間なので、この家畜伝染病の恐ろしさというものは非常によく知っている。どんなに警戒していても、必死で取り組んでも、入ってき

てしまう可能性は排除できない」と述べ、「農家の方々には、要件をもう一度認識いただきたい。11月～翌年1月、これが最大のピークとなるシーズンである。いよいよ12月も終わりかけているが、あと1カ月半、これがピークの期間ではあるが、そこで終わるとも限らない」と呼びかけた。

鹿児島県霧島市で鳥フル、肉用鶏10万羽殺処分—農水省

農水省は20日、鹿児島県霧島市の家禽農場で、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認(今シーズン国内15例目)されたことを発表した。

これを受け、同農場の肉用鶏約10万羽が殺処分となる。

【東京食肉卸売市場】牛は弱含み、豚は軟調か

[牛]年末年始の手当てもピークとなり、競りは活発。前週、和牛5等級は2700円超え、3等級も2400円超えが続くなど、上物からスソ物まで全体的に引き合いがあり、相場は和牛、交雑牛共に堅調に推移した。

部分肉の動きをみると、引き続きカタ系は品薄、荷余り感が続いていたバラ系が値を上げている。

今週25日までは300頭を超える上場が予定されているが、以降はぐっと少なくなる。また、作業を考えると、年末向けの手当てもほぼ終わり。市場休みが長い^{ひっぽく}ため、それなりに最後まで買いが入ると思われるが、5等級でも作りによっては価格のバラツキが出てくるだろう。弱含みか。年内は28日の臨時競りが止め市、来年の初競りは7日。

[豚]いよいよ今年も残りわずかとなった。東京市場の年内の競りは28日まで、年明けは6日から行われる予定となっている。

前週は年末年始の手当てもピークを迎えた中、一度緩んでいた相場が再び上昇。週半ばには、上物、中物ともに700円を超える価格となった。

例年同様、年末で出荷量が増えていることから、全国と畜頭数は連日7万頭を大きく上回っているものの、余剰感などはみられない。輸入物は入船遅れによる^{ひっぽく}逼迫感などは解消されたが、引き続き需給は締まっており、国産物への需要は底堅い。

ただ、週後半には相場が急落。例年同様、年内最終盤となる今週は軟調な相場展開となるか。

【大阪市食肉卸売市場】牛は高騰、豚は下落

[牛]年末を前に、和牛相場は高騰している。残りの上場日数も先がみえてきているため、頭数をそろえるために積極的な仕入れが行われている。5等級だけでなく4等級も大幅な高値となっており、ニーズの強さが感じられる。

年内の上場は25日までとなっている。年末ということで上場頭数も少なくなる見通しで、現状の供給不足の中にあって、最後まで苛烈な競り合いが予測される。

る。

交雑牛も、和牛の代替需要として引き合いが強まっているが、和牛ほどの勢いはなく、交雑牛の方が勢いがあった今年のこれまでの動きとは逆転しているといえるだろう。

[豚]一時の高騰に比べるとすっかり下落した豚枝肉相場。年内この先、一定の出荷が見込まれるものの、このまま500円程度の相場で終えそうだ。

ふるさと納税の返礼品で米澤佐藤畜産の「最高級米沢牛一頭分」提供開始

山形県米沢市は新たなふるさと納税の返礼品として、(株)米澤佐藤畜産から最高級米沢牛1頭分の提供を開始した。寄付額2250万円以上の場合、総重量約300kgの米沢牛肉を届ける。提供するのは、肉質最高ランクA5等級、霜降り度を示すBMS値が10以上という、えりすぐりの米沢牛のみ。

原則的に一頭丸ごとの提供となり、サーロインやリブブロス、タン、モモ肉といった定番部位だけでなく、シャトーブリアンやサンカクバラ、ミスジ、トウガラシといった希少部位も含めた、総重量約300kg、合計20の部位を楽しめる内容となっている。

寄付受付後に相談を行い、一括発送ではなく、最大30回までの分割や複数配送先の指定

が可能。内容が確定してから1カ月後の配送開始となるため、米沢牛一頭をじっくりと味わえる。(なお、冷凍開始から9カ月以内の発送。配送後の消費期限は約1カ月)



その他加工肉製品11月 POS売れ筋品目 ベストランキング月次

出典:KSP-POS 地区:全国、業態:全国食品スーパーマーケット、期間:2024年11月 対象店舗数:1,043店舗 品目合計:2億7,043万7,734円

順位	メーカー名 / アイテム名		金額	数量	平均価格	金額シェア	数量シェア	販売店率
1	シジシージャパン	ほぐしサラダチキン 100g	5,817,772	27,898	208.5	2.2	3.4	25.9
2	シジシージャパン	サラダチキンプレーン 125g	4,991,949	24,645	202.6	1.9	3.0	26.9
3	日本ハム	サラダチキンプレーン 156g	4,497,477	15,960	281.8	1.7	2.0	39.2
4	伊藤ハム	ソラチのたれ使用ジンジスカン 180g×3	4,397,876	5,718	769.1	1.6	0.7	3.6
5	イオントップバリュ	TV 手仕込みローストビーフシルキークット 108g	3,708,556	7,433	498.9	1.4	0.9	9.9
6	紀文食品	牛すじ 3本	3,636,938	9,153	397.4	1.3	1.1	8.4
7	米久	くらし 肉だんご 330g	3,143,259	11,613	270.7	1.2	1.4	5.9
8	プリマハム	サラダチキン3連プレーン 180g	3,061,221	11,006	278.1	1.1	1.4	20.6
9	日本ハム	サラダチキンハーブ 156g	3,043,118	10,856	280.3	1.1	1.3	34.2
10	プリマハム	香薫ミニステーキ 86g	3,030,036	13,545	223.7	1.1	1.7	42.2
11	紀文食品	おでんや 味がしみ込んだ牛すじ串3本 65g	3,017,617	6,325	477.1	1.1	0.8	21.3
12	丸大食品	サラダチキン切落し プレーン 100g	2,979,656	14,107	211.2	1.1	1.7	33.1
13	伊藤ハム	こてっちゃん もつ鍋醤油味 500g	2,919,626	7,764	376.1	1.1	1.0	52.8
14	丸協食産	牛シロモツ 400g	2,902,714	4,037	719.0	1.1	0.5	9.7
15	恵風	牛すじ串 4本	2,726,894	6,416	425.0	1.0	0.8	5.6
16	プリマハム	合鴨スモーク 170g	2,686,597	8,282	324.4	1.0	1.0	38.7
17	プリマハム	サラダチキン3連ハーブ 180g	2,553,121	9,158	278.8	0.9	1.1	19.8
18	西日本バッカー	牛すじ	2,535,486	3,392	747.5	0.9	0.4	2.7
19	伊藤ハム	こてっちゃん もつ鍋味噌味 500g	2,485,615	6,600	376.6	0.9	0.8	50.0
20	伊藤ハム	糖質0サラダチキンハーブ 183g	2,408,530	8,147	295.6	0.9	1.0	15.8
21	丸大食品	サラダチキン切落し ハーブ 100g	2,352,910	11,249	209.2	0.9	1.4	33.7
22	シジシージャパン	サラダチキンブラックペッパー 125g	2,267,879	11,391	199.1	0.8	1.4	25.0
23	丸協食産	焼肉用牛ホルモン 200g	2,246,921	5,597	401.5	0.8	0.7	11.1
24	プリマハム	炭火焼ローストビーフ 120g	2,172,821	3,112	698.2	0.8	0.4	15.2
25	花丸家	新 豚キムチ鍋 アルミ 600g	2,162,372	4,665	463.5	0.8	0.6	8.9
26	シジシージャパン	サラダチキンハーブ 125g	2,098,271	10,599	198.0	0.8	1.3	25.7
27	共栄食肉	味付ロースジンジスカン 330g×3	2,028,730	1,823	1,112.9	0.8	0.2	4.2
28	イオントップバリュ	TV 手仕込みローストビーフシルキークット 60g	2,023,998	5,810	348.4	0.8	0.7	9.3
29	星山商店	白ホルモン味付け 400g	1,994,905	2,090	954.5	0.7	0.3	1.8
30	伊藤ハム	糖質ゼロサラダチキンプレーン 183g	1,991,089	6,854	290.5	0.7	0.9	14.8
31	丸協食産	ローストビーフ和風仕立て 90g	1,970,430	4,900	402.1	0.7	0.6	6.9
32	カネテツデリカフーズ	味付け牛すじ肉真空 3串	1,963,414	3,913	501.8	0.7	0.5	10.8
33	共栄食肉	まるやかジンジスカン 300g×3	1,955,360	2,190	892.9	0.7	0.3	4.9
34	日本ハム	蒲焼鶏スライス 103g	1,891,779	7,238	261.4	0.7	0.9	14.2
35	丸協食産	コリコリ塩ホルモン 200g	1,867,354	5,423	344.3	0.7	0.7	15.4
36	イオントップバリュ	TV 手仕込みローストビーフシルキークット 190g	1,816,198	2,253	806.1	0.7	0.3	5.7
37	プリマハム	合鴨バストラミ 170g	1,746,833	5,578	313.2	0.7	0.7	33.7
38	アマタケ	サラダチキン プレーン 100g	1,720,703	6,539	263.1	0.6	0.8	14.1
39	丸大食品	サラダチキン切落しスモーク 100g	1,683,223	7,921	212.5	0.6	1.0	23.3
40	奥野寿久商店	牛すじ 18g×4	1,671,729	3,800	439.9	0.6	0.5	3.7
41	フリーデン	国産豚白もつ 700g	1,611,379	1,982	813.0	0.6	0.2	4.5
42	米谷産業	炭や 塩ホルモン 280g	1,528,632	2,613	585.0	0.6	0.3	5.9
43	丸協食産	たれ焼き豚レバー 250g	1,521,464	4,496	338.4	0.6	0.6	13.5
44	シジシージャパン	サラダチキン チャーシュー 125g	1,517,644	7,690	197.4	0.6	1.0	19.9
45	西日本バッカー	国産牛すじ	1,500,298	2,784	538.9	0.6	0.3	2.7
46	シジシージャパン	サラダチキン スモーク 110g	1,489,050	7,568	196.8	0.6	0.9	19.6
47	日本ハム	角煮トンポーロー 115g	1,461,240	3,813	383.2	0.5	0.5	22.6
48	滝沢ハム	豪州産炭火焼ローストビーフスライス 60g	1,454,346	3,747	388.1	0.5	0.5	2.6
49	伊藤食品	牛スジ 袋 8本	1,418,247	3,023	469.2	0.5	0.4	1.4
50	伊藤ハム	ソラチオリジナルのたれ使用 ロースジンジスカン 200g×3	1,385,915	1,413	980.8	0.5	0.2	3.0

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 12月20日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,243	2,772	2,489	-	-
		安値	2,484	2,401	2,215	-	-
		平均	2,779	2,548	2,338	1,620	-
	89頭	頭数	48	35	5	1	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	2,250	1,945	-	-
	2頭	頭数	-	1	1	-	-
	去 A	高値	3,349	2,684	2,551	1,947	-
		安値	2,381	2,377	2,214	1,658	-
		平均	2,733	2,530	2,391	1,792	-
	215頭	頭数	122	77	14	2	-
去 B	高値	-	2,405	-	-	-	
	安値	-	2,344	-	-	-	
	平均	2,366	2,373	1,933	-	-	
4頭	頭数	1	2	1	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,724	1,682	1,445	
		頭数	-	2	1	7	
	雌 C	平均	-	-	-	-	
	-頭	頭数	-	-	-	-	
去 B	平均	-	1,827	1,678	1,488		
	頭数	-	6	15	15		
去 C	平均	-	-	1,599	1,372		
4頭	頭数	-	-	1	3		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	430	818	-	(競り)	(相対)	
売買	429	1,161	366.5	-	9	62

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,771	2,058	1,413	1,195	-
	B	-	1,214	1,290	1,001	864
和 去	A	2,751	2,505	2,149	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	922	812
	C	-	-	-	922	791
乳 去	B	-	-	-	-	767
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,812	1,645	1,432	-
	C	-	-	1,669	1,228	-
交 去	B	1,981	1,806	1,664	1,496	-
	C	-	1,596	1,527	1,406	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	799	848	771	770	638
	安値	702	626	600	432	356
	平均	755	661	639	613	488
	頭数	(10)	(430)	(497)	(162)	(62)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入相対	高値	-	743	-	-	475
安値	-	743	-	-	454	
平均	-	743	-	-	467	
頭数	(-)	(6)	(-)	(-)	(3)	

[大阪食肉卸売市場] 12月20日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,704	2,442	2,116	-	-
(頭数)	(7)	(7)	(3)	(-)	(-)
B	-	-	2,233	1,728	-
(頭数)	(-)	(1)	(2)	(2)	(1)
和 去 A	2,751	2,364	2,014	-	-
(頭数)	(15)	(5)	(2)	(-)	(-)
B	2,475	2,389	1,977	-	-
(頭数)	(1)	(2)	(1)	(1)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	2,083	1,807	1,731	-	-
C	-	-	1,745	-	-
交雑去 B	1,880	1,836	1,696	1,636	-
C	-	1,846	1,658	1,524	-
豚	-	512	476	409	475

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	12月20日	12月19日	(12月累計)
豚	73,200	73,700	1,054,200
成牛計	4,750	4,960	81,640
和牛雌	1,370	1,160	20,310
和牛去勢	1,050	1,240	23,260
乳牛雌	820	1,160	11,340
乳牛去勢	440	560	8,030
交雑雌	450	330	8,580
交雑去	620	490	9,990

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 12月20日

東京	1,581円	(前日 1,710円)
大阪	1,696円	(前日 1,550円)

[豚・全農建値] 12月20日

上	中	取引頭数	市況
668円	639円	1,187頭	続落

と畜	牛 66頭	豚 368頭	牛概況	もちあい
売買	牛 110頭	豚 201頭	豚概況	もちあい

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 12月20日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	648 (648)	- (-)	6,327	-	もちあい
仙台 [中]	652 (682)	610 (619)	618	196	反落
宇都宮 [地]	699 (759)	669 (706)	1,841	54	急反落
茨城 [地]	676 (706)	652 (684)	1,591	748	反落
群馬 [地]	657 (671)	531 (590)	2,377	540	続落
さいたま [中]	662 (661)	651 (640)	288	285	もちあい
東京 [中]	661 (676)	639 (655)	818	1,161	続落
横浜 [中]	683 (689)	628 (665)	665	669	下落
山梨 [地]	- (670)	- (631)	-	-	休市
浜松 [地]	637 (645)	589 (603)	402	31	下落
名古屋 [中]	659 (635)	610 (616)	987	288	反発
京都 [中]	648 (593)	600 (596)	106	75	もちあい
大阪 [中]	512 (512)	476 (467)	368	201	もちあい
神戸 [中]	630 (633)	617 (631)	-	60	-
岡山 [地]	660 (647)	649 (644)	395	322	強気配
広島 [中]	619 (-)	579 (-)	385	119	上伸
福岡 [中]	633 (658)	597 (626)	603	195	反落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 12月13日～12月19日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,783,747 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,137	1,263	1,350	1,251	101,200
うで	739	810	850	805	151,178
ロース	1,069	1,196	1,270	1,186	136,647
ばら	1,219	1,308	1,361	1,306	183,964
もも	745	788	815	784	216,060
ヒレ	1,079	1,267	1,383	1,252	14,783
セット	990	1,034	1,077	1,036	979,915

◇近畿圏 総重量 868,284 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,210	1,348	1,381	1,320	78,913
うで	731	752	799	752	135,659
ロース	1,112	1,229	1,268	1,206	112,408
ばら	1,218	1,312	1,426	1,319	154,324
もも	707	728	778	727	196,373
ヒレ	1,119	1,194	1,296	1,213	10,391
セット	945	983	1,050	993	180,216

[食鳥正肉日経相場] 12月20日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	691	737	848	158
ムネ	371	410	503	125

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	691	749	1,010	7
ムネ	385	430	570	4

[農水省統計情報部食鳥市況] 12月20日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	994	625	550	600	650
安値	707	388	290	360	350
平均	748	420	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

◆業界動向がデータでわかる
数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

◆畜産・食肉業界の動向大全
日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 470頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉
ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

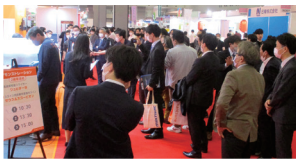
銘柄豚肉
ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

◆国内で唯一、
最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランクett判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、B5判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

◆あなたの常識を強固にする
今さら聞けない肉の常識

平野正男 著
鏡 晃 監

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

◆知識を豊かにする
食肉用語事典(新改訂版)

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方
牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳
DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

◆大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

◆東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1

TEL 03(3663)2011 FAX 03(3663)2015

◆九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995